

15章 左官工事

4節 床コンクリート直均し仕上げ

15. 4. 1 一般事項

この節は、床コンクリート打込み後、コンクリートの表面を金ごて仕上げ及び粗面仕上げとする工事並びに塗物、敷物、張物等の下地及び防水下地の工事に適用する。

15. 4. 2 床面の仕上り

床面の仕上りの平たんさは、次による。

- (ア) 壁の幅木の張付け方向は、3mにつき3mm以内とする。
- (イ) 仕上り面のむらは、目視により支障がない程度にする。
- (ウ) (ア)及び(イ)以外は、6.2.5[構造体コンクリートの仕上り](2)(イ)による。

15. 4. 3 工法

(1) 工法は、6.6.6[上面の仕上げ]を行った後、次を標準として仕上げる。

- (ア) 中むら取りを木ごてで行う。
- (イ) 踏板を用いて金ごて押えを行い、セメントペーストを十分に表面に浮き出させる。
- (ウ) 締り具合を見て、金ごてで強く押さえ平滑にする。
- (エ) 粗面仕上げとする場合は、(ウ)の工程の後、デッキブラシ等で目通りよく粗面に仕上げる。
- (オ) 屋内の床仕上げの種類で、ビニル系床材、合成樹脂塗床等の仕上げ厚が薄い場合には、金ごて仕上げ又は機械こて仕上で、下ずり、中ずり及び仕上げずりの3工程を標準とする。
- (カ) セルフレベリング材塗りの場合は、(イ)までの金ごて押え1回を行う。

(2) 仕上面でこてムラの著しい箇所は、コンクリート硬化後、グラインダーで平滑に仕上げる。

15. 4. 4 養生

(1) 表面仕上げ後、コンクリートの硬化状態を見計らい、6章7節[養生]によるほか、ビニルシート等により、表面の保護を行う。

(2) 上階の型枠取付け、鉄筋の運搬等に当たり、仕上げ表面を傷つけないように行う。